

# あいち病害虫情報 最新情報

平成29年11月16日  
愛知県農業総合試験場  
環境基盤研究部病害虫防除室

## 期間のはじめは気温がかなり低くなる見込み

10月下旬に降水量が多かった（平年比916%、名古屋地方気象台データ）ため、病害が発生しやすい状況でした。

名古屋地方気象台が本日発表した1か月予報によると、期間のはじめは、気温がかなり低くなると予想されています。また、平年に比べ、晴れの日が少ない見込みで、向こう1か月の平均気温は、平年並または低い確率ともに40%です。降水量は平年並または多い確率ともに40%です。日照時間は、少ない確率50%です。なお、気温は、1週目は低い確率80%で、2週目は平年並の確率50%、3～4週目は平年並または高い確率ともに40%です。

## ハクサイベと病など病害に注意！

11月上旬の巡回調査では、ハクサイベと病の発生量がやや多い状況です。降雨が続くと多発するため、注意が必要です。発生しているほ場では、シグナムWDGやプロポーズ顆粒水和剤などで防除しましょう。白斑病や白さび病が多く発生しているほ場もあります。発生を確認したら速やかに防除しましょう。

## 菌核病に注意！

キャベツ菌核病は、10月下旬の巡回調査で既に多くのほ場で発生を確認しており、発生量はやや多い状況でした。発病株は直ちに抜き取ってほ場外に持ち出し、適切に処分しましょう。10月31日発表の「平成29年度病害虫発生予察注意報第9号」を参考にしてください。なお、本病の病原菌は多種の植物に感染します。菌核病が発生している地域では、他作物での発生にも注意しましょう。

キャベツ黒腐病の発生が多いほ場があります。本病は風を伴う降雨で発生が助長されますので、気象予報に注意し、降雨前後に防除を実施しましょう。また、発生を確認したほ場では、収穫後の残渣はほ場外に持ち出し、適切に処分しましょう。10月31日発表の「平成29年度病害虫発生予察注意報第8号」を参考にしてください。

## キャベツ、ハクサイのコナガ

フェロモントラップによるコナガの誘殺数は、江南市と豊橋市のハクサイほ場、田原市のキャベツほ場で10月以降、豊橋市のキャベツほ場で11月以降多い状況です。また、田原市のキャベツほ場では11月第2半旬に誘殺数が急増しました。11月上旬の巡回調査では、ハクサイほ場における発生量は平年並ですが、今後の発生に注意しましょう。春先気温が高くなると、生育が早くなり、発生が増加するため、今のうちに防除しましょう。コナガは薬剤抵抗性が発達しやすいため、同一系統薬剤の連用を避けましょう。また、コナガが発生しているほ場では、収穫後は残渣を速やかにすき込み、発生源を除去しましょう。

## 果菜類の病害

果菜類の灰色かび病やトマト葉かび病、トマトすすかび病は、施設を密閉し施設内の湿度が高まる11月中下旬頃から発生が多くなります。積極的に換気や送風を行って、多湿にならないようにしましょう。また、発病部位は速やかに取り除き、適切に処分しましょう。

トマトでは、草勢が衰えると、葉かび病の発生が助長されます。適切な温湿度管理とともに、生育に応じた肥培管理に努めましょう。

## イチゴの病害虫

ハダニ類は、多発すると防除が難しくなります。ハダニ類の防除では、ミツバチや天敵への影響を考慮して薬剤を選定しましょう。気門封鎖型農薬を積極的に活用し、同一系統薬剤の連用を避けて防除しましょう。天敵を利用する場合は、導入前に薬剤で防除し、ハダニ類の密度を下げてから放飼しましょう。

うどんこ病は、多発生すると防除が難しくなるので、初期防除に努めましょう。また、窒素過多は発生を助長するので、適切に肥培管理しましょう。

## キュウリの黄化えそ病

キュウリ黄化えそ病の病原ウイルス（MYSV）は、ミナミキイロアザミウマにより媒介されます。本虫の防除を徹底するとともに、発病株は抜き取り適切に処分しましょう。

予察灯、フェロモントラップなどの各種調査データは、ホームページ「あいち病害虫情報」（アドレス：<http://www.pref.aichi.jp/byogaichu/investigation.html>）を参照してください。

問合せ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除室 TEL 0561-62-0085 内線471 FAX 0561-63-7820
---